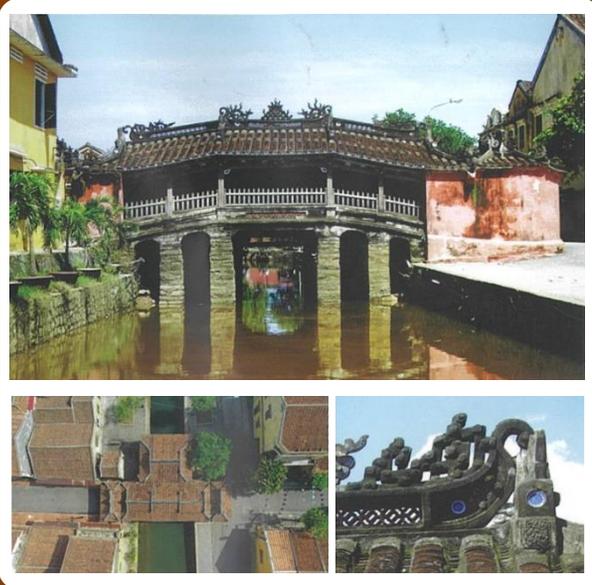




ホイアン市人民委員会
ホイアン文化遺産管理保存センター



日本橋（来遠橋）修理 プロジェクト 基本情報

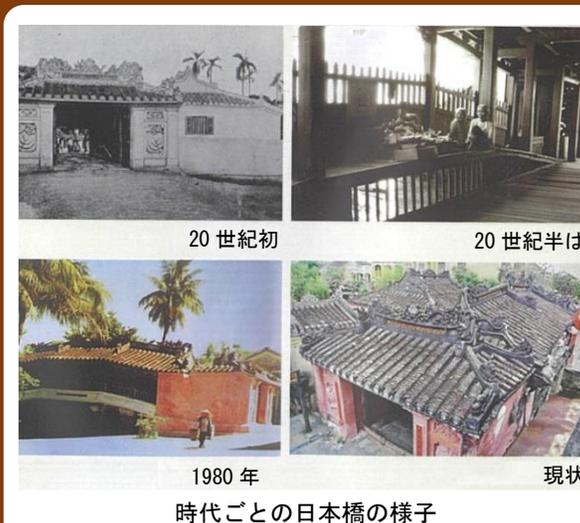


- ・発注者：ホイアン市人民委員会
- ・建築設計・コンサルタント：文化遺産保存
研究所史跡保存コンサルティングセンター
- ・着工時期：2022年12月



来遠橋あるいは Chua Cau という名前でも知られているホイアンの日本橋は、建築的にも美術的にも他にはみられない特徴あるモニュメントとして世界遺産・ホイアン旧市街のシンボルとなっています。このモニュメントは400年近くの歴史を持ち、少なくとも7回の改修を経ています。ホイアンの多くの人々による幾世代にも渡る努力にもかかわらず様々な傷みを見せており、文化的価値を保つためにこれからの年月に耐える全体的な修理が必要となっています。

上記の特別な意味合いと価値を考えると、日本橋の修復は、最重要課題と見なされなければなりません。調査、研究、計画から修復作業まですべての段階は慎重に、細心の注意を払って、科学的に行う必要があります。



技術的な課題についてどのように現状評価を行うべきか十分に検討され、多くの項目に渡って慎重かつ適切な調査が実施されています。伝統技術と現代技術の両面から目に見える部分、見えない部分いづれについても詳細な調査を行なっています。



地盤のボーリング調査



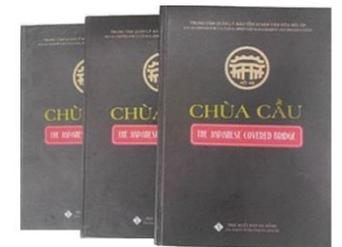
常時微動の測定



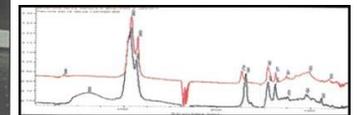
専門家の経験を踏まえた
木材の評価

修理工事においては、日本橋に関する歴史的、文化的、建築的な価値と技術的現状について様々な調査を行い、客観性、真正性（オーセンティシティ）、保存の原理原則を間違いなく確保するようにしています。

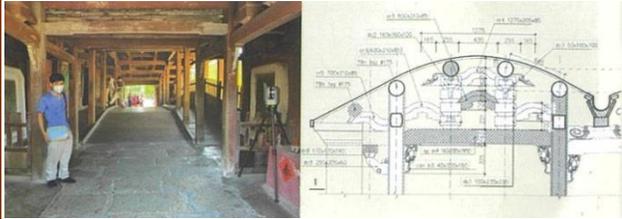
報告書『日本橋』。多くの調査・研究の報告を掲載し、修理方針について幅広く目配りしています。



工事開始時に現状の部材に対して化学分析を行い、部材の性能を確認します。



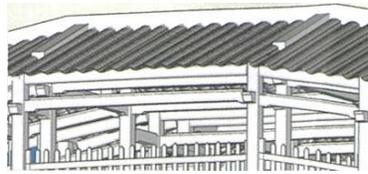
デジタル3D技術を用いて、解体・組み立ての際に必要なデータベースを構築します。



レーザーキャナによる
デジタル情報化

建築図面

日本の協力による
日本橋の3Dモデル化



複数回の会議、セミナー、住民会議により修理方針について議論が繰り返されました。



日本による修理プロジェクトへの
技術協力の覚書調印式



日本橋修理についての国際シンポジウム（2016年）

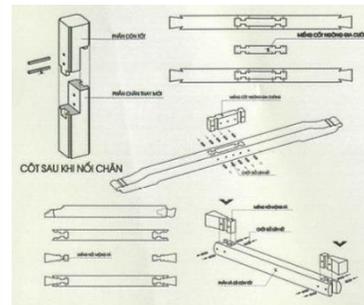
修理工事の基本方針：元の部材をできる限り維持し、現状の価値と機能を維持する。すべての改変の客観性、歴史性を踏まえた上で、文化財としての価値を長期間に渡り維持する。修理工事には科学的に適切な技術を適用する。日常的に工事管理を行い、工事の経過を記録に残す。



工事期間中に日本橋を保護するための素屋根で覆うとともに、参観者が快適に見学できる場所を設けます。



修理にあたっては部分的な解体または全面的な解体を行います。解体された部材は丁寧に実測、作図、写真記録が行われ、保管されます。

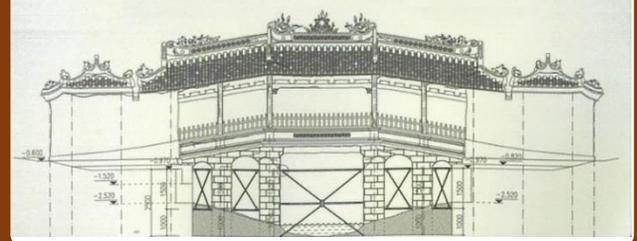


木材、屋根飾り、装飾は念入りかつ細心に補修して耐久性を確保し、見た目においても材質においても工事以前と同様のものとします。

すべての構造部材は現状と解体前の実測図面にもとづき番号付けされ、補修後の組み立てに備えます。



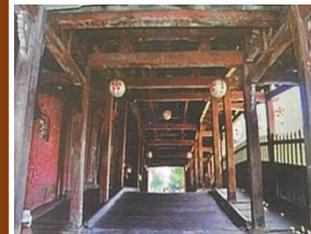
基礎と橋脚を堅固にするため樹脂とモルタルを用いてヒビを埋め、基礎を強化するコンクリートを打ち加えます。



装飾や屋根飾りは部分ごとに取り外した後、補強します。構造部材はできる限り現状の物を用いて組み立てを行います。



屋根から下ろされた瓦は、清掃、分類、保存を経てできる限り再利用されます。



木材は慎重に補修方法を検討した上で、適切に補修されて組み直されます。現状の部材を最大限に活用することができるよう補強と補修を行うことを最優先としています。取り替えて新しくなった部材は塗装も含めて元の部材と同様になるようにしています。

今後、すべての面において細心の注意を払いながら意欲的に準備を行い、日本橋の修理プロジェクトを実りある結果に導くようにします。この貴重な文化遺産の修理に臨んで準備と実行のために様々にお力添えをいただいた国内外の皆様、各関係機関に感謝申し上げます。